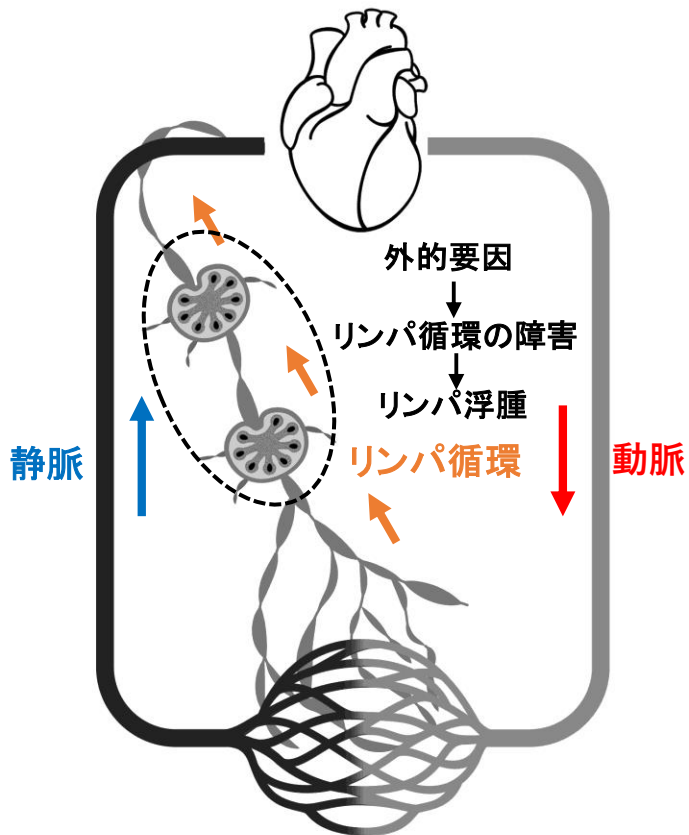


東京大学形成外科のリンパ浮腫治療の特徴

- ✓ リンパ浮腫は慢性疾患であり、浮腫をコントロールすることが大切です。
⇒リンパ浮腫については1ページ
- ✓ 外科治療と保存治療を組み合わせることでより高い治療効果が期待できます。
- ✓ リンパ循環を改善することを目的に外科治療を行います。
⇒手術については3~4ページ
- ✓ リンパ循環を改善することで形態(整容性)と機能の改善を目指します。
- ✓ リンパ浮腫の治療をお考えの方は。
⇒リンパ浮腫外来については5ページ□

リンパ浮腫

リンパ浮腫は、リンパ輸送システムの機能不全によって組織間隙に生理的な代償能力を越えて過剰な組織液が貯留した状態です。本邦では、悪性腫瘍の手術の際のリンパ節廓清後に発症する2次性リンパ浮腫が多く、乳癌手術後の10～30%、子宮癌手術後の12～40%に発症すると報告されており、上肢リンパ浮腫が3～5万人、下肢リンパ浮腫が5～7万人存在すると推定されています。



【リンパ浮腫の分類】

- ・1次性リンパ浮腫:リンパ管系の低形成、無形成などの異常が先天的に存在している。
- ・2次性リンパ浮腫:外的要因によりリンパ循環の障害が起こり発症する。

【2次性リンパ浮腫の主な原因】

- ・悪性腫瘍の治療に伴うリンパ節廓清や放射線照射(本邦では最も多い)
- ・外傷
- ・リウマチ
- ・フィラリア

リンパ浮腫の治療

リンパ管静脈吻合術

- ✓ 体表のリンパ液は、下肢であれば鼠径リンパ節、上肢であれば腋窩リンパ節が入口となり深部に流れ心臓の傍まで運ばれると静脈に合流し血液循環に取り込まれます。
- ✓ 癌治療に伴うリンパ郭清によりリンパの通り道が障害されることで、障害部位の下流域ではリンパ液が滞りリンパ浮腫となります。
- ✓ リンパ管静脈吻合術は、顕微鏡下にリンパ管と静脈を吻合し、四肢の中でリンパ液を血液循環に戻すためのバイパスを造る方法です。
- ✓ この方法は、体への負担が少なく手術翌日から動くことができます。

【参考文献】 Yamashita S, et al.: Microsurgical Procedures: Lymphovenous anastomosis Techniques. In Cheng MH, et al. (eds). *Principles and Practice of Lymphedema Surgery*. Amsterdam: Elsevier, 2015:173-179.

リンパ浮腫の治療

リンパ移植術

- ✓ リンパ浮腫の状態が継続すると、機能を持ったリンパ管の数は減り、リンパ管静脈吻合術を行う事ができなくなります。
- ✓ 機能したリンパ管を失った重症リンパ浮腫がリンパ移植術の適応になります。
- ✓ リンパ移植術は、リンパ管とリンパ節を含めたリンパ組織を移植し新たなリンパ循環を再建する手術です。
- ✓ リンパ組織は、顎下部、鎖骨上部、外側胸部、鼠径部などから採取します。

【参考文献】 山下 修二,他. 下肢リンパ浮腫に対するリンパ移植術. 形成外科:59(8);841-846,2016.

リンパ浮腫外来

- ・診察日 木曜日AM
- ・担当医 山下修二
- ・下記予約センターにお電話で受診予約をしてください。
予約センター 10:00～17:00(平日)
☎☐ 03-5800-8630

✓☐ 原疾患のある方はかかりつけの医療機関の紹介状を持参してください。